

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
第92回経営協議会議事要録

日 時 令和3年3月18日(木) 13:00～16:00  
場 所 北陸先端科学技術大学院大学 第1・第2会議室(国際交流会館1階)  
出席者 寺野稔(議長), 永井由佳里, 飯田弘之, 西山和徳, 黒田壽二, 細野昭雄,  
水田博, 相澤益男, 井熊均, 岩澤康裕, 小俣一夫, 久和進, 澁谷進, 中尾  
正文及び平澤冷の各委員  
欠席者 谷本正憲委員  
オブザーバー 三宅幹夫監事, 水野一義監事, 西本一志学系長, 上原隆平学系長,  
山口政之学系長, 塚原俊文学系長及び南良一石川県企画振興部課長

議事に先立ち, 議長から, 事前に送付した令和2年11月19日開催の第89回経営協議会の議事要録(案), 令和2年12月17日付け開催の第90回経営協議会(書面付議)の議事要録(案)及び令和3年1月26日付け開催の第91回経営協議会(書面付議)の議事要録(案)について, 資料1-1, 1-2及び1-3に基づき説明があり, 原案のとおり承認された。

## 議 事

### <審議事項>

#### 1 領域再編について

学長から, 領域再編について, 資料20に基づき説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認された。また, 委員から以下のとおり意見が述べられた。

- ・教員組織としての研究面での領域の定義, あるいは入試や学生募集, カリキュラムといった教育面での領域の定義について伺いたい。それぞれどのような狙いや位置付けになるのか。  
⇒教員組織としての領域という面では, 学系を越えた教員間の連携により, 新しい研究分野・研究領域を開拓し, イノベーションを創出していくための緩いつながりを作るというイメージであり, 先生方が連携を取っていただく上での手頃な強さを持った組織体という位置付けである。教育面について, まず入試に関しては, 一研究科として共通で進めることとなるが, 学生募集の観点からは, 本学にどのような研究分野の塊があるかということを知りやすく見せるための領域という位置付けである。カリキュラムについては, 各領域の推奨カリキュラムを作る予定である。ただし, 推奨科目以外にも, 領域や研究内容にあまり縛られることなく, 学生自身が学びたいものを自主的に選んで受けていくということになるので, カリキュラムに関して強い縛りを領域に与えることは考えていない。

- ・大学院の入学者ともなると、ある程度強い志望を持って入学してくるものと考えられ、もし、志望していた領域以外の領域に回されることがあるとすると、学生にとって不幸なことだと思うが、それはどのようにコントロールするのか。

⇒研究室の配属は入学後に希望調査を行い、1－1期の成績に基づき決定するので、研究室の定員枠により必ずしも希望どおりに配属されるとは限らないが、領域内には複数の教員が所属しているため、自分のまったく希望しない領域に配属されるという可能性は極めて低いと言える。また、特に強い志望を持った学生のために、入学前に配属研究室を内定する制度も運用している。いずれにしても、領域ごとの定員枠は設けず、柔軟に対応していきたいと考えている。

⇒領域ごとに学生からの人気・不人気という偏りが出てくると思うので、その偏りを領域に所属する先生方の反省材料として考えてもらい、学生にとってより魅力的な研究領域となるよう知恵を絞ってもらおうとよい。

- ・イノベーションの創出のためには、研究領域内の教員間の連携と同時に、研究領域間の連携ということも非常に重要であると考えているがいかがか。

⇒ご指摘のとおり、1つの研究領域から新たなイノベーションがそう簡単に創出されるとは考えていない。教員にはできるだけ多様な連携を図ってもらいたいと考えており、そのスタートとして、今回、教員間のつながりができた形としての研究領域を準備したので、今後、研究領域間の連携や外部組織との連携への発展につなげていきたい。

## 2 令和3年度年度計画について

評価・広報室長から、令和3年度年度計画について、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、追加・修正等の必要が生じた場合の対応については、学長に一任された。

## 3 令和3年度予算編成について

会計課長から、令和3年度予算編成について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## 4 目的積立金の執行計画について

会計課長から、目的積立金の執行計画について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## 5 情報社会基盤研究センターの改組について

丹副学長から、情報社会基盤研究センターの改組について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。また、委員から以下のとおり意見が述べられた。

- ・統括本部及びセンターを新設するとのことだが、本部長の人選や今後のリソースの規模など、現時点の計画を教えてほしい。

⇒本部長には、丹副学長に就任いただくことで決定している。情報関係の副学長として経験を積んでおり、適任であると考えている。リソースの規模については、新設の遠隔教育研究イノベーションセンターに教授・准教授・助教各1名を配置したいと考えている。現在、遠隔教育ユニットの准教授1名に仕事が集まり過ぎてオーバーワークになっているため、ここの補強は何としてでも行いたい。技術職員については統括本部の所属とし、情報系の2つのセンターの中で、業務の状況を考慮しながらうまくマンパワーの配分を行っていく。

## 6 デジタル化支援センターの設置について

研究推進課長から、デジタル化支援センターの設置について、資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。また、委員から以下のとおり意見が述べられた。

- ・DXに関するビジネスで成功している企業の特徴として、まず自分たちを徹底的にDX化し、それを外部に向けて商品化するというように、企業の内部と外部に対するサービスの壁をなくしていることが挙げられる。情報社会基盤研究センターの改組のような、大学運営自体のデジタル化の取り組みも重要なことであるし、デジタル化支援センターでの取り組みのような、地域社会に対する貢献もすばらしいことだと思う。ぜひ、この内部に対するサービスと外部に対するサービスとの壁をなくし、シームレスに進めていただければと思う。  
⇒ご指摘のとおりと考えており、シームレスに進めていくために、情報環境・DX統括本部の本部長とデジタル化支援センターのセンター長を、どちらも丹副学長にお願いして立ち上げることにしている。  
⇒情報環境・DX統括本部及びデジタル化支援センターの取り組みに加え、昨年担当しているリカレント教育についてもこれらと関係が深いので、この3つをうまく連携させながら進めていきたい。
- ・デジタル化支援センターで実施する企業との共同研究のテーマとしていくつか例示されているが、すでに企業から具体的な提案は出てきているのか。  
⇒ここに挙げたテーマに関しては、これまで通常の共同研究でお付き合いがあった企業を中心に、社内で継続的に課題解決ができるような人材育成も含めた共同研究であるという本制度の特色を説明し、5社ほどの企業に実施の同意をいただいたものとなる。
- ・企業の方からデジタル化に関する課題の提案があり、それを大学がサポートしていくという形は、良い成果が得られるものと思う。一方、そもそも課題に気が付いていない企業も数多くあり、そこにこの事業を展開していくと、新たな需要やおもしろいものが生まれるのではないかと思う。そのようなニーズの掘り起こしに関する取り組みの計画はあるのか。  
⇒ご指摘のとおり、特に機械・鉄鋼・繊維・食品といった産業が中心である石川県や北陸三県で考えると、デジタル化に関する課題を自覚している企業の方がむしろ少なく、DXと

言われてもどうしたらいいか見当もつかないという企業が大半であろうと思う。そこに対し、技術面が専門の情報科学系の教員と、知識経営が専門の知識科学系の教員とが連携し、継続的なセミナー開催等により普及活動に取り組んでいる。また、地域全体の課題として自治体等でもニーズの掘り起こしの活動をされているので、石川県工業試験場や石川県庁とも連携し、取り組みを進めている。

⇒本学の産学連携活動は「御用聞き活動」と言っており、URAを中心としたスタッフが年間300社くらいの企業を訪問している。今後は、この企業訪問の際にデジタル化に関するニーズの聞き取りも併せて行い、デジタル化支援センターでの共同研究の提案につなげることを計画しているので、かなり広範な広報活動ができると考えている。

## 7 学内規則の一部改正

- ・ 役員報酬規則の一部改正について

人事労務課長から、役員報酬規則の一部改正について、資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- ・ 職員給与規則等の一部改正について

人事労務課長から、職員給与規則等の一部改正について、資料8に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- ・ 会計事務取扱規則の一部改正について

会計課長から、会計事務取扱規則の一部改正について、資料9に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

- ・ 学則等の一部改正について

総務課長から、学則等の一部改正について、資料10に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## <報告事項>

### 1 J A I S T未来ビジョンについて

学長から、J A I S T未来ビジョンについて、資料11に基づき報告があった。

### 2 第4期中期目標・中期計画について

評価・広報室長から、第4期中期目標・中期計画について、資料12に基づき報告があった。また、委員から以下のとおり意見が述べられた。

- ・次期中期目標・中期計画については、J A I S T未来ビジョンに基づき策定されることと思う。ビジョンにおいて、「世界トップの研究大学を目指す」という目標を掲げているが、中期目標・中期計画期間は6年間であるので、世界トップという最終的な目標に向けて、

少なくとも次の6年間で何を実現するのかということ、具体的でかつアトラクティブなものとして設定できるとよい。他大学もこれまで同様に苦勞してきているので、それらの表現を参考にしてもよいし、直近では、指定国立大学法人の指定において、各大学が構想として出されたものがあるので、比較対照する上でぜひ参考にされるとよい。

- 中期目標を達成する上でのKPIは各大学が独自に設定することだが、文部科学省の指針等に合わせて対応していくよりも、JAISTが目指すものに向けて、指標をうまく利用していけるとよい。

⇒これまでのように指標の達成度合いに運営費交付金の配分を連動させるということになると、なかなか思い切った指標の設定は難しいが、そこが連動しないということになれば、我々が目指す方向ものに向けた有効な指標を選択し、思い切った努力目標の設定をしたいと考えている。

### 3 令和2年度監事監査結果報告について

三宅監事から、令和2年度監事監査結果報告について、資料13に基づき報告があった。

### 4 令和2年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について

学長から、令和2年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告について、資料14に基づき報告があった。

### 5 令和3年度運営費交付金予定額について

会計課長から、令和3年度運営費交付金予定額について、資料15に基づき報告があった。

### 6 令和3年4月入学入試状況について

教育支援課長から、令和3年4月入学入試状況について、資料16に基づき報告があった。

### 7 令和2年度「産業界の有識者と学長との懇談会」の開催報告について

学長から、令和2年度「産業界の有識者と学長との懇談会」の開催報告について、資料17に基づき報告があった。

### 8 最近の本学の活動状況について

評価・広報室長から、最近の本学の活動状況について、資料18に基づき報告があった。

### 9 本学組織図について

学長から、令和3年度の本学の組織について、資料19に基づき報告があった。

## <意見交換>

### 1 研究分析について

水田特別学長補佐から、研究分析について、資料21に基づき説明があり、その後、意見

交換が行われた。

- ・様々な指標に出てくる「教員1人あたり」の根拠としてQS世界大学ランキングの教員数を用いているとのことだが、単純な教員数ではなく、PI (Principal Investigator) を用いることにより、研究グループとして捉えた方が実態に合うのではないかと。  
⇒ご指摘のとおり、分母としてどのような基準を採るのが適切かということについては、様々な議論があると考えている。本学としては、共通のデータベースから出た数字を用いることにより統一した基準で算出したいという考えで、QS世界大学ランキングの教員数を用いている。いずれにせよ、本学を無理に上に見せるための恣意的な基準を用いている訳ではないことをご理解いただきたい。

## 2 カリキュラム改革について

飯田理事から、カリキュラム改革について、資料22に基づき説明があり、その後、意見交換が行われた。

- ・「融合」をキーワードに新たな組織改編を行っている他大学の例を調べたところ、多くの大学では、カリキュラムとして異なるディシプリンを並べているだけであって、JAISTではすでに一研究科への統合によってそのような形になっている。融合の次の段階として、例えばデータサイエンスやデジタルトランスフォーメーションのように、広い学問分野を基盤とするカリキュラムを持つということになると、他大学では一大学にしか例がなかったが、この場合もJAISTにはすでにその種のカリキュラムが存在する。JAISTとしては、さらに、その次の段階を考える必要があるが、異なるディシプリンを俯瞰的に見て、1つの視野で議論できるようになる体系、例えばシステム論、システム思考、ソフトサイエンス、設計論のような学問領域があてはまると思うが、そのようなカリキュラムをもう少し強化していけば、様々な研究領域にもうまく合い、より自由で学生の専門性を広げることができる教育システムになりうると考えている。一研究科のメリットを活かせる、他大学にはないカリキュラムとなることを期待している。

### <その他>

#### 1 令和3年度経営協議会開催日程について

議長から、令和3年度経営協議会開催日程について、参考資料のとおりである旨の説明があった。

#### 2 次回の開催について

議長から、次回の本協議会の開催を令和3年6月17日(木)に予定している旨の説明があった。

## 資料

- 1-1 第89回経営協議会議事要録（案）
- 1-2 第90回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
- 1-3 第91回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
- 2 令和3年度年度計画について
- 3 令和3年度当初予算（案）
- 4 中期目標期間を越えて使用する積立金の事業計画（案）
- 5 情報社会基盤研究センターの改組について（案）
- 6 デジタル化支援センターの設置について
- 7 役員報酬規則の一部改正について（案）
- 8 職員給与規則等の一部改正について（案）
- 9 学会計事務取扱規則の一部改正について（案）
- 10 学則等の一部改正について（案）
- 11 J A I S T未来ビジョン
- 12 第4期中期目標・中期計画について
- 13 令和2年度監事監査結果報告書
- 14 令和2年度監事監査における改善すべき事項への対応状況報告書の提出について
- 15-1 令和3年度国立大学法人運営費交付金予定額
- 15-2 令和3年度国立大学法人運営費交付金予定額（別冊資料）
- 16 令和3年4月入学入試状況について
- 17 令和2年度「産業界の有識者と学長との懇談会」の開催報告
- 18 最近の本学の活動状況について
- 19 本学組織図
- 20 領域再編について
- 21 研究分析について
- 22 カリキュラム改革について
- 参考 令和3年度経営協議会開催日程